



農 業 の 振 興

しは た いく ぞう
柴 田 幾 蔵

(79才)

現住所 雄勝郡羽後町

柴田氏は、長年にわたり西馬音内町農業協同組合長、雄勝郡畜産農業協同組合長、雄勝郡土地改良協会長、秋田県土地改良協会理事等を歴任し、農業団体の育成発展に尽くし、特に西馬音内町農業協同組合の基盤の強化と経営の健全化を図り優れた実績をあげたほか畜産並びに土地改良事業の促進に努め、農家経済の向上に献身されるなど本県農業の振興に大きく貢献された。



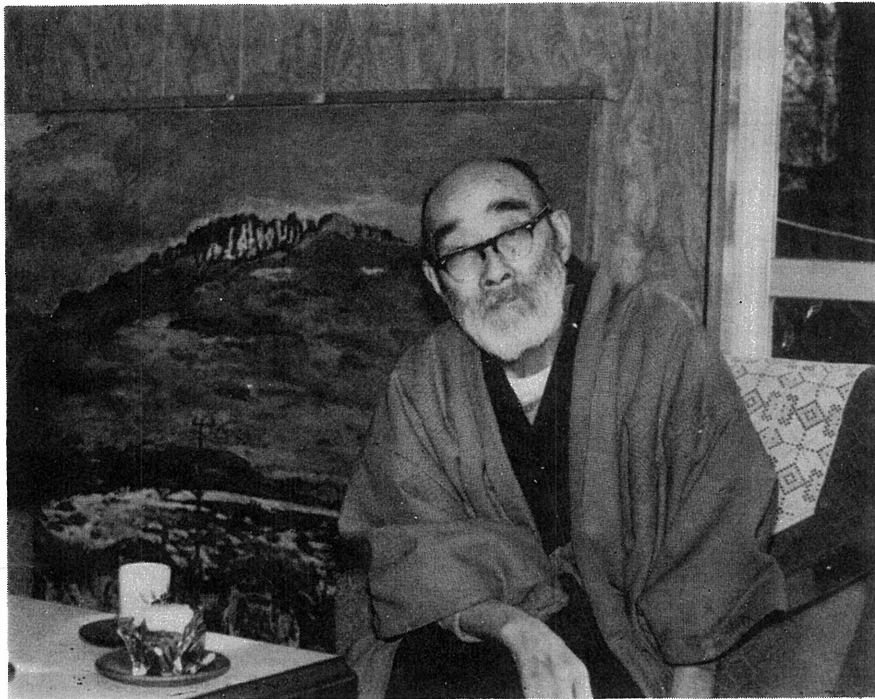
産 業 の 振 興

かた の しげ なが
片 野 重 脩

(78才)

現住所 横手市

片野氏は、大正11年以来横手町長、秋田県議会議員及び衆議院議員として地方自治の発展と国政に尽くしたほか、昭和10年から秋田県農会長、秋田県森林組合連合会長及び秋田県組合金融統制団理事長さらに昭和26年から秋田県総合開発審議会長、地方労働委員会委員及び秋田県経営者連盟会長等数多くの要職をつとめ、農林、経済、金融、交通、観光等各分野に尽力され、本県産業の振興に大きく貢献された。



美術の振興

伊藤 弥太

(77才)

現住所 大館市

伊藤氏は、洋画家を志し、明治45年上京、岸田劉生画伯の指導を受け、題材を郷土秋田風物に求め、特に十和田湖、田沢湖及び日本海岸を画いた作品の多くを展覧会に出品して秋田の美しさを紹介した。また国画会会員として中央画壇において活躍され昭和20年帰郷し生命を絵筆に託して日夜制作に励むかたわら、絵画、版画、彫刻等のグループ「ホモ・フェアール会」を組織し、後進の指導にあたるなど本県の美術の振興に大きく貢献された。



教育書道の推進

かき ぎき かん う えもん
柿 崎 勘 右 衛 門

(76才)

現住所 平鹿郡平鹿町

柿崎氏は、大正3年から昭和23年まで小、中学校長等を歴任し、子弟の教育に尽くしたほか、昭和31年から、秋田市、増田町及び大森町で書道塾を開き後進の指導に努める一方、秋田県書道教育研究会長、秋田魁書道展審査委員さらには、横手市横手書話会副会長等の要職にあって、本県教育書道の推進に大きく貢献された。



婦人の地位向上と社会福祉

ささ 村 ミ ヨ

(63才)

現住所 秋田市

笹村氏は、大正13年から昭和18年まで子女の教育に尽くされたが、戦後の混乱した社会と人心の虚脱感を克服していくため婦人の団結が必要であることから、新しい婦人会の結成に努め船川町のリーダーとして活躍した。その後南秋田郡連合婦人会を結成し、婦人会活動の充実発展に努めたほか、秋田市連合婦人会長として秋田国体の成功に大きな役割を果たした。さらに秋田県地域婦人団体連絡協議会長、秋田県結核予防婦人会副会長として婦人の地位の向上に尽くすとともに結核予防思想の普及と積極的な推進に努め受診率の向上に大きな成果をおさめた。



史学及び民俗学の研究発表

いま むら よし たか
今 村 義 孝

(61才)

いま むら ひろ こ
今 村 泰 子

(53才)

現住所 秋田市

今村夫妻は、長年にわたり史学及び民俗学の研究に尽くされ、特に義孝氏は、史学研究において権威者として知られ、秋田史学会の創設に尽くし大きな成果をあげるとともに、著述も多く、地方史、民族学研究に大きな価値をもたらした。また県史編さん委員として秋田古文書の解明記述、八郎冨総合学術調査委員として広範な民俗調査に献身された。また泰子夫人は、昭和31年から夫義孝氏の郷土史研究の補助者として県内に伝わる昔話の収集と研究にはげみ、昭和34年「秋田むかしこ第一集」を出版、昭和43年には第二集「民話集」を完成した。さらに本年8月「秋田のわらべ歌」を出版し、民俗学研究の貴重な郷土資料として高く評価されるなど、夫妻は、本県教育文化の向上発展に大きく貢献された。



農村医学の研究と確立

たつ み まさ いち
立 身 政 一

(56才)

現住所 横手市

立身氏は、昭和24年から平鹿総合病院長として、外科治療に専念し、数々の研究事例実績をあげるとともに農村医学に情熱をそそぎ、昭和27年日本農村医学会の設立に尽くし、

さらに昭和28年秋田県農村医学会を創設し初代会長として農村医学の研究とその確立に努めた。特に農夫症対策及び農薬障害の実態調査を行ない農村医学の向上に貢献されたほか、秋田県農民健康会議の発足などの基礎づくりに多大の功績をあげた。また結核予防協会秋田県支部、秋田県成人病予防協会等の要職にあって県民の保健福祉の向上に献身的な努力をされた。